

1. 出来形管理基準（寸法管理）

工 種	測 定 項 目		規格値 (mm)	施工管理基準	管理方法	処置	摘 要
	項目	細 目					
ほ場 整備 工	表土扱	厚		-20%	10a 当たり3点以上。 (標高差測定又はつぼ掘による)	偏差を求め、出来形管理表を作成する。	全区画について作成する。 (標高差測定の場合は、表土均平の平均標高と基盤均平の平均標高の差とする)
	基盤造成及び表土整地	基準高	指定したとき	±150	10a 当たり3点以上 標高測定する。	同 上	全区画について作成する。
		均平度		±50			
	畦畔工	基準高	指定したとき	-50	おおむね1筆につき 1箇所割で測定する。	同 上	
		幅		-50			
	荒 起	基準深		±50	10a 当たり3点以上 (試掘による)	同 上	
	客 土	厚		設計値以上	表土扱と同じ	同 上	客土した区画は全部作成する。
		均平度		±50	表土整地と同じ		
	水路工	基準高	指定したとき	±100	測点毎及び200m毎に 1箇所測定する。	同 上	
		幅	土水路	-100			
道路工	基準高	指定したとき	±150	同 上	同 上		
	幅		-150				
暗渠 排水 工	吸水渠	基準高	布設深	-75	1線につき上中下流端の 3箇所測定する。	同 上	逆勾配は不可 全線について作成する。
		幅	巻立	-50			
	集水渠	基準高	布設深	-75	1線につき上下流端 2箇所測定する。	同 上	
		幅	巻立	-50			

1. 出来形管理基準（寸法管理）

エ	種	測定項目		規格値 (mm)	施工管理基準	管理方法	処置	摘要	
		項目	細目						
農用地造成工	改良山成畑	面の寸法	辺・対角線	-100	面積測定に必要な線長と耕起深は ha 当たり 10 同所のほか、つば堀 2 箇所/ha を実施する。	測定値は設計値に対する偏差を求め、出来形管理表を作成する。			
		耕起深	果樹園	-75					
		耕起深	普通畑	-15					
		法	指定した時	±1分					
	園内道路	幅		-150	測点毎及び 100m 毎に 1 箇所測定する。	同上			
		厚	路盤厚	-45					
		法		±2分					
	土壌改良	P・H		±0.5%	おおむね 0.5ha/箇所以上（深さ 15cm）改良材散布後 2 週間経過して測定する。	偏差値を求め、品質管理様式を作成する。		試験方法 ガラス電極法による。	
	農道工	岡山県土木工事共通仕様書による。							
砂利舗装工		幅		-100	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で測定する。	測定値は設計値に対する偏差を求め、出来形管理表を作成する。			
		厚さ		-45					
		施工延長		-0.2% ただし、延長 50m 未満 -100					
水路 トル ンネ	岡山県土木工事共通仕様書による。								
水路 工	開水路工	岡山県土木工事共通仕様書による。							

1. 出来形管理基準（寸法管理）

工 種	測 定 項 目		規格値 (mm)	施工管理基準	管理方法	処置	摘 要
	項 目	細 目					
管類 布設 工	管類布設工	基準高		±30	測点毎及び設計図に表示してある箇所の測定。 二次製品使用の場合は製品の寸法については規格証明書等による。	測定値は設計値に対して偏差を求め、出来形管理表を作成する。	
		管上高	h	-50			
		施工延長	50m 未満	-50			
			50m 以上	-0.1%			
		付帯構造物寸法	幅・高・厚	-30			
		敷及び巻立の砂又は砂利	幅 ・ 高	-50			
		スラストブロック	b、h、L (管巻厚) h	-30			
スプリンクラー	埋設深さ	-50	構造図の寸法表示箇所を測定する。	同上			
畑かん 設工	スプリンクラー	埋設深		-50	構造図の寸法表示箇所を測定する。		
コン クリ ート ダム		岡山県土木工事共通仕様書による。					
フィ ルダ ム		岡山県土木工事共通仕様書による。					

ダム基礎グラウチング		岡山県土木工事共通仕様書による。		
用排水機場工		岡山県土木工事共通仕様書による。		

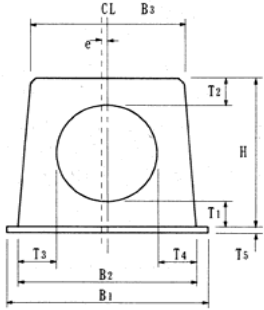
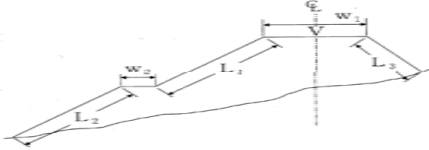
1. 出来形管理基準（寸法管理）

エ 種	測 定 項 目		規格値 (mm)	施工管理基準	管理方法	処置	摘 要	
	項 目	細 目						
頭首工	本体	基準高	±30	構造図の寸法表示箇所を測定する。	基準高、厚さ、幅、高さ、長さについては構造図に朱記、併記する。 構造図に朱記、併記することが困難なものについては、設計値に対して偏差を求め、出来形管理表を作成する。			
		幅	天端幅等					-30
			エプロン部					-60
		厚さ	導流壁、エプロン部等					-30
		高さ	導流壁等					-30
	長さ	導流壁、エプロン部	-100					
護床ブロック (異形ブロック)	基準高		±150	基準高については施工面積 100 m ² につき 1 箇所割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。	偏差を求め、出来形管理表を作成する。 基準高で 20 点以上のものについては、管理図表を作成する			
	面積		-0.2%					

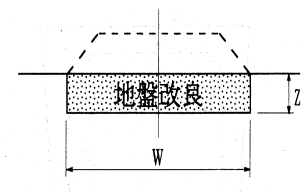
1. 出来形管理基準（寸法管理）

工 種	測 定 項 目		規格値 (mm)	施工管理基準	管理方法	処置	摘 要
	項 目	細 目					
ため 池工	堤体工	基準高	V	±100	線的なものは、施工延長 20mにつき 1 箇所割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。	測定値は設計値に対して偏差を求め、出来形管理表を作成する。	1. 盛土の幅は盛土高 1 m 毎に管理する。 2. 測定は原則水平距離とするが、法長の場合は斜距離とする。 3. 出来形測定と写真管理は同一箇所で行う。 4. 出来形図は、横断面図を利用して作成する。 5. 余盛を指定した場合は、余盛計画高により管理する。
		堤幅	W	-100			
		法長	L	-100			
		法勾配		-1 分			
		施工延長		-0.2% 50m未満 -100			
	洪水吐工 同上付帯構造物 (シュートブロック等)	基準高	V	±30	基準高、厚さ、幅、高さ、中心線のズレは、施工延長 1 スパンにつき 1 箇所割合で測定する。 箇所単位のものについては、適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。	同上	スパン長の標準は 9 m とする。 
		厚	T	±20			
		幅	B	±30			
		高	H	±30			
		中心線のずれ	e	直線部 ±50 曲線部 ±100			
		施工延長		10m未満 -50 50m未満 -100 50m以上 -150			
		スパン長	L	直線部 ±20 曲線部 ±30			

1. 出来形管理基準（寸法管理）

工 種	測 定 項 目		規格値 (mm)	施工管理基準	管理方法	処置	摘 要
	項 目	細 目					
ため池工	樋管工 同上付帯構造物 (土砂吐ゲート)	基準高	V	±30	基準高、厚さ、幅、高さ、中心線のずれは、施工延長10mにつき1箇所割合で測定する。 ジョイント間隔については1本毎に測定する。 箇所単位のものについては、適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。	同上	<p>基準高の管理は管の管底とする。</p> 
		厚	T	-20			
		幅	B	-20			
		高	H	-20			
		中心線のズレ	e	直線部 ±50 曲線部 ±100			
		施工延長	50m 未満	-50			
			50m 以上	-0.1%			
	ジョイント間隔	Z	別表ア参照 (ダクタイト管使用の場合は別表イ参照)				
	ボーリング グラウト工	削孔位置		±100	各孔毎に測定する。	測定値は設計値に対して偏差を求め出来形管理表を作成する。	1. 削孔位置を平面図に記入する。
		削孔深度		-100			
工事用道路 (盛土)	基準高	V	±100	施工延長の概ね20～40mにつき1箇所とし、上記未满是2箇所測定する。	同上	<p>1. 測定は原則水平距離とするが、法長の場合は斜距離とする。 2. 出来形測定と写真管理は同一箇所で行う。 3. 出来形図は、横断面図を利用して作成する。</p> 	
	幅	W	-150				
	法 長	L	法長 5m未満 ±65 法長 5m以上 ±1.3%				
	施工延長		-0.2% 50m以上は -100				

1. 出来形管理基準（寸法管理）

工 種	測 定 項 目		規格値 (mm)	施工管理基準	管理方法	処置	摘 要
	項 目	細 目					
ため池工	工事用道路 (地盤改良)	幅	W	-150	施工延長の概ね20m につき1箇所とし、 上記未満は2箇所 測定する。	同上	1. 改良範囲等を平面図に記入する。 
		施工延長		50m未満 -0.2% -100			
		改良深	Z	-100			
	浚渫工	基準高	V	+100	施工延長の概ね20m につき1箇所とし、 基準高は3箇所以 上測定する。	同上	
		幅	W	-150			
		法長	L	法長5m未満 ±65 法長5m以上 ±1.3%			

別表ア 管水路（遠心力鉄筋コンクリート管）のジョイント間隔管理基準

（単位：mm）

呼び径 (mm)	JIS A 5372 RC 管 (B 形管)			JIS A 5372 RC 管 (NB 形管)	JIS A 5372 RC 管 (NC 形管)
	標準値	規格値		規格値	規格値
		良質地盤	軟弱地盤		
150		+20 0	+11 0	+23 0	
200		+20 0	+11 0	+23 0	
250		+20 0	+11 0	+23 0	
300		+18 0	+10 0	+23 0	
350		+18 0	+10 0	+23 0	
400		+21 0	+11 0	+29 0	
450		+21 0	+11 0	+29 0	
500		+21 0	+11 0	+29 0	
600		+23 0	+13 0	+29 0	
700		+21 0	+12 0	+29 0	
800		+24 0	+13 0	+29 0	
900		+26 0	+15 0	+29 0	
1,000		+32 0	+18 0		
1,100		+33 0	+19 0		
1,200		+35 0	+21 0		
1,350		+37 0	+22 0		
1,500	5				+33 5
1,650	5				+33 5
1,800	5				+33 5
2,000	5				+33 5
2,200	5				+33 5
2,400	5				+38 5
2,600	5				+38 5
2,800	5				+38 5
3,000	5				+38 5

注) 1. 規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。

2. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径 700 mm 以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径 800mm 以上に適用する。

なお、「埋戻後」とは、特に指示のない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。

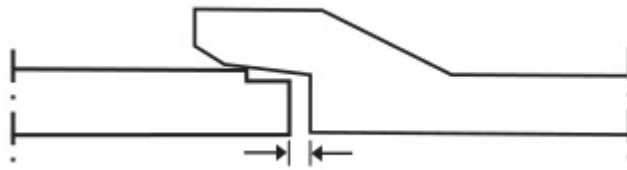
3. 標準値は目地処理のため施工上必要な、本来開くべきジョイント間隔値を示している。規格値は下図に示す位置を測定するものとする。

4. 管の外側から測定する場合の測定位置は、管理図 1 に示す a' b' c' d' とする。

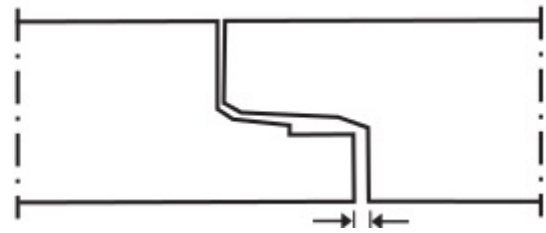
〈参考〉 ジョイント間隔測定位置を以下に示す。

(1) 内面から計測する場合

B形及びNB形



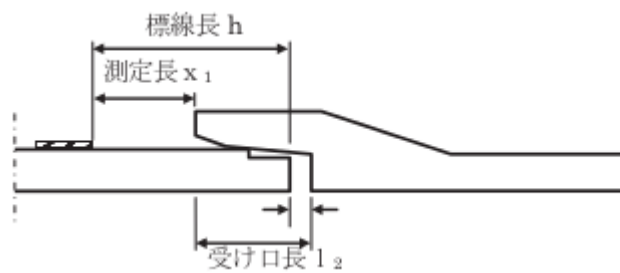
NC形



(2) 内面から計測する場合

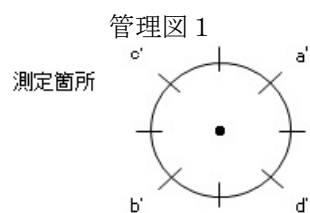
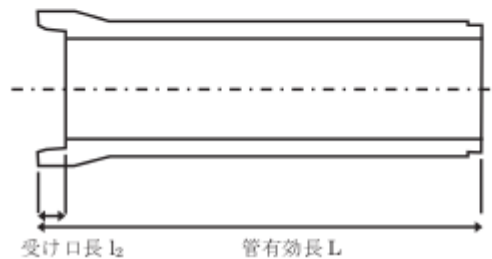
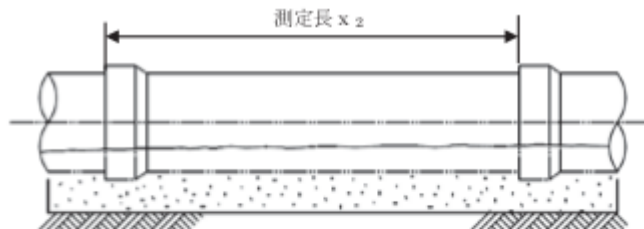
1) 標線による計測

ジョイント間隔 = 受け口長 l_2 - (標線長 h - 側線長 x_1)



2) 標線によらない計測 (参考)

ジョイント間隔 = 受け口長 l_2 - (管有効長 L - 測定長 x_2)



別表イ 管水路（ダクタイル鋳鉄管）ジョイント間隔管理基準（単位：mm）

呼び径 (mm)	JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027	JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1029		JIS G 5526・5527 及び JDPA G 1027・1029
	K 形	U 形		T 形（直管）
	規格値	標準値	規格値	規格値
75	+19 0			+16 0
100	+19 0			+16 0
150	+19 0			+16 0
200	+19 0			+14 0
250	+19 0			+14 0
300	+19 0			+24 0
350	+31 0			+24 0
400	+31 0			+24 0
450	+31 0			+24 0
500	+31 0			+30 0
600	+31 0			+30 0
700	+31 0	105	+32 -5	+30 0
800	+31 0	105	+32 -5	+30 0
900	+31 0	105	+32 -5	+40 0
1,000	+36 0	105	+33 -5	+40 0
1,100	+36 0	105	+33 -5	+40 0
1,200	+36 0	105	+33 -5	+50 0
1,350	+36 0	105	+35 -5	+50 0
1,500	+36 0	105	+35 -5	+60 0
1,600	+40 0	115	+33 -5	+70 0
1,650	+45 0	115	+33 -5	+70 0
1,800	+45 0	115	+33 -5	+80 0
2,000	+50 0	115	+36 -5	+90 0
2,100	+55 0	115	+36 -5	
2,200	+55 0	115	+36 -5	
2,400	+60 0	115	+36 -5	
2,600	+70 0	130	+36 -5	

- 注) 1. 規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
2. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径800mm以上に適用する。
- なお、「埋戻後」とは、特に指示のない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。
3. 管の外側から測定する場合の測定位置は、別表アの管理図1に示すa' b' c' d' とする。
4. ダクタイル鋳鉄管のうちK形管・T形管のジョイント間隔測定位置及びU形管の標準値は下図のy寸法である。yの測定位置は、鋳鉄層とモルタルライニング層の境界部を目安とする。

呼び径 (mm)	JIS G 5526・5527 及び JDP A G 1027・1029
	T 形 (異形管)
	規格値
75	+16 0
100	+17 0
150	+18 0
200	+16 0
250	+14 0

注) 5. JDP A G 1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) の呼び径は以下のとおり。

・ T形及びT形用継ぎ輪 : 300~2,000、K形 : 300~2,600

6. JDP A G 1029 (推進工法用ダクタイル鋳鉄管) の呼び径は以下のとおり。

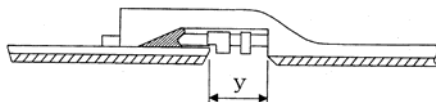
・ T形 : 250~700、U形 : 800~2,600

7. JDP A G 1027 (農業用水用ダクタイル鋳鉄管) のT形用継ぎ輪のジョイント間隔は、JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) のK形に準じる。

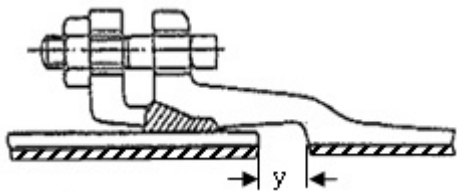
8. JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管) のK形、U形のジョイント間隔は、JIS G 5526 (ダクタイル鋳鉄管) のK形、U形に準じる。

9. 標準値は継手構造上、本来開くべきジョイント間隔値を示しており、規格値は標準値に対する値を示している。

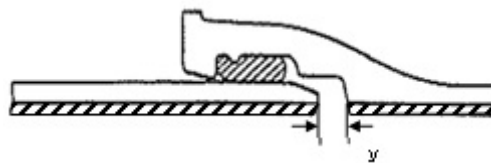
U形管



K形管



T形管



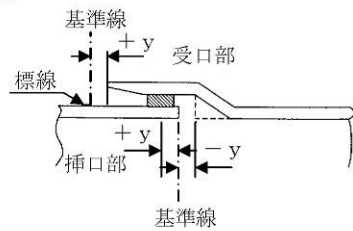
別表ウ 管水路（強化プラスチック複合管）ジョイント間隔管理基準（単位：mm）

呼び径 (mm)	JIS A 5350			JIS A 5350		
	B 形 及び T 形			C 形		
	標準値	規格値		標準値	規格値	
		良質地盤	軟弱地盤		良質地盤	軟弱地盤
200	0	+33 -33 (0)	+22 -22 (0)	0	+33 0	+22 0
250	0	+33 -33 (0)	+22 -22 (0)	0	+33 0	+22 0
300	0	+38 -38 (0)	+25 -25 (0)	0	+38 0	+25 0
350	0	+38 -38 (0)	+25 -25 (0)	0	+38 0	+25 0
400	0	+43 -43 (0)	+28 -28 (0)	0	+43 0	+28 0
450	0	+43 -43 (0)	+28 -28 (0)	0	+43 0	+28 0
500	0	+53 -52 (0)	+35 -34 (0)	0	+53 0	+35 0
600	0	+53 -52 (0)	+35 -34 (0)	0	+53 0	+35 0
700	0	+53 -52 (0)	+35 -34 (0)	0	+53 0	+35 0
800	0	+53 -52 (0)	+35 -34 (0)	0	+53 0	+35 0
900	0	+53 -52 (0)	+35 -34 (0)	0	+53 0	+35 0
1,000	0	+53 -51 (0)	+35 -33 (0)	0	+53 0	+35 0
1,100	0	+53 -51 (0)	+35 -33 (0)	0	+53 0	+35 0
1,200	0	+53 -51 (0)	+35 -33 (0)	0	+53 0	+35 0
1,350	0	+53 -51 (0)	+35 -33 (0)	0	+53 0	+35 0
1,500	0	+53 -51 (0)	+35 -33 (0)	0	+53 0	+35 0
1,650	0	+80 -77 (0)	+53 -50 (0)	0	+80 0	+53 0
1,800	0	+80 -77 (0)	+53 -50 (0)	0	+80 0	+53 0
2,000	0	+95 -92 (0)	+63 -60 (0)	0	+95 0	+63 0
2,200	0	+95 -92 (0)	+63 -60 (0)	0	+95 0	+63 0
2,400	0	+113 -110 (0)	+75 -72 (0)	0	+113 0	+75 0
2,600	0	+113 -110 (0)	+75 -72 (0)			
2,800	0	+128 -125 (0)	+85 -82 (0)			
3,000	0	+128 -125 (0)	+85 -82 (0)			

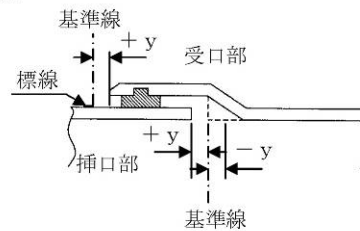
- 注) 1. 規格値は埋戻後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 2. 測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻後の測定は、原則として呼び径800mm以上に適用する。
 なお、「埋戻後」とは、特に指示がない限り、舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。
 3. 管の外側から測定する場合の測定位置は、別表アの管理図1に示すa' b' c' d'とする。
 4. 継手部の標準断面は次ページのとおりであり、標準地は図の寸法yである。なお、基準線に対し抜け出し側を（+）、入り込み側を（-）とする。また、管理基準値等のうち（ ）内数値は、点線で示した形状の管に適用する。
 5. D形の場合は、受口側と挿口側を各々測定する。

呼び径 (mm)	JIS A 5350		
	D 形		
	標準値	規格値	
良質地盤		軟弱地盤	
200	0	+25 -3	+15 -3
250	0	+25 -3	+15 -3
300	0	+25 -3	+15 -3
350	0	+25 -3	+15 -3
400	0	+35 -3	+25 -3
450	0	+35 -3	+25 -3
500	0	+35 -3	+25 -3
600	0	+35 -3	+25 -3
700	0	+35 -3	+25 -3
800	0	+40 -5	+30 -5
900	0	+40 -5	+30 -5
1,000	0	+40 -5	+30 -5
1,100	0	+40 -5	+30 -5
1,200	0	+40 -5	+30 -5
1,350	0	+40 -5	+30 -5
1,500	0	+45 -5	+35 -5
1,650	0	+45 -5	+35 -5
1,800	0	+45 -5	+35 -5
2,000	0	+45 -5	+35 -5
2,200	0	+50 -5	+40 -5
2,400	0	+50 -5	+40 -5

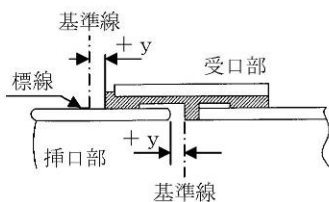
B形



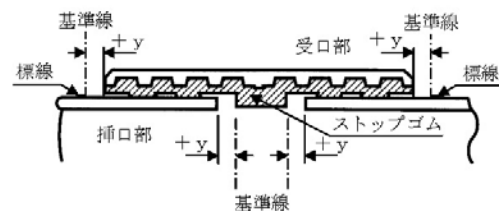
T形



C形



D形



※管がストップゴムをつぶしている場合は(-)とする。
 なお、その場合受口側の値を0とする。